

(目的)

第1条 この計画は、水防法（昭和二十四年法律第百九十三号）第十五条の二第1項に基づき、駅の利用者の洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保及び洪水時の浸水の防止を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 この計画は、当駅に勤務し又は当駅を利用する者に適用する。

2 当駅の名称及び所在地は、以下のとおりである。

名称	所在地
日比谷線 入谷駅	台東区下谷2-15-1

(駅近接施設の関係者との相互連携)

第3条 管理駅に直接接続する施設等ができた場合は、この計画及びその訓練の実施にあたって、該施設の関係者と、情報の共有その他の相互連携に努めるものとする。

(浸水想定及び洪水予報等)

第4条 水防法第十四条第1項に基づき指定された浸水想定区域内に当駅がある河川は、次に掲げるとおりである。

(1) 荒川、隅田川

2 水防法第十五条第2項に基づき伝達される洪水予報等の受信方法は、以下のとおりである。

受信方法	伝達元
日比谷線 入谷駅	NTT FAX 台東区危機管理室危機管理課

(防災体制)

第5条 洪水の危機を認めたときは、当駅に自衛水防隊を編成する。

2 自衛水防隊は、自衛水防統括管理者、自衛水防隊長及び自衛水防副隊長並びに避難誘導班、止水班、通報連絡班その他必要な班から構成し、当駅に勤務する者を割当ててを基本とする。

3 自衛水防隊の任務は、次に掲げるとおりである。

(1) 自衛水防統括管理者 自衛水防隊を統括する。

(2) 自衛水防隊長 各班を編成・指揮する。

(3) 自衛水防副隊長 自衛水防隊長を補佐し又は代行する。

(4) 避難誘導班 利用者を避難誘導する。

(5) 止水班 止水処置を行う。

(6) 通報連絡班 水防管理者等との連絡窓口となる。

(7) その他必要な班 自衛水防隊長が定める。

4 すべき活動を終え又は洪水の危機がなくなったときは、自衛水防隊を解散する。

(避難の誘導及び浸水の防止のための活動)

第6条 自衛水防隊は、利用者の避難誘導、出入口等の止水処置等を行う。

2 避難誘導は、当駅構内の出入口等までとし、避難先の案内については、関係行政機関からの広報によるものとする。

3 止水処置は、避難誘導が完了してから行うものとする。ただし、避難誘導と並行して行うことがある。

4 水防管理者及びその連絡窓口は、以下のとおりである。

水防管理者	連絡窓口
台東区長	台東区危機管理室危機管理課

(避難の確保及び浸水の防止を図るための施設の整備)

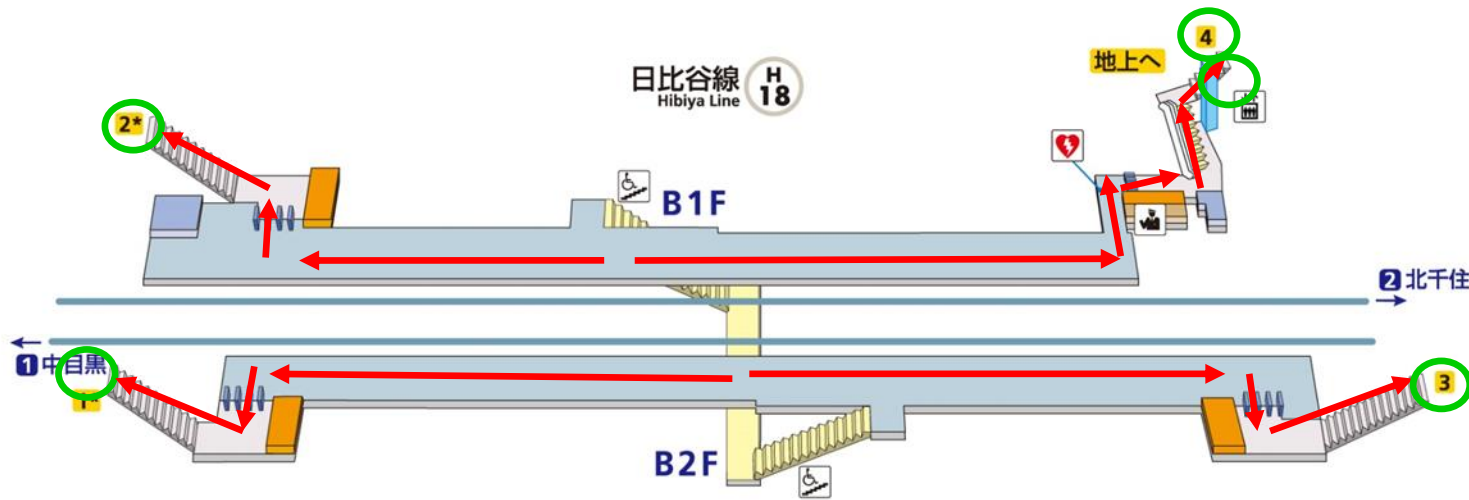
第7条 避難誘導経路並びに止水処置の位置及び方法は、別記を基本とする。

(教育・訓練の実施)

第8条 当駅に勤務する者に対して、防災週間等の時機を捉えて、この計画に係る教育・訓練を実施するものとする。

日比谷線入谷駅構内立体図

→ 避難誘導経路  
○ 止水板による止水処置



- ◉ 出口案内
- 1\* 2\* 入谷交差点  
入谷鬼子母神(福祿寿)  
JR鶯谷駅  
金杉区民館  
小野照崎神社
  - 3 上野消防署下谷出張所

[2014.5.31現在]

凡例	改札内階段	改札外階段	エスカレーター	駅事務室/お忘れ物取扱い所	車いすスロープ
	B1 出口	地上行エレベーター	エレベーター	車いす対応エスカレーター	階段昇降機
	A5* *利用に時間制限のある出口	改札内	改札外	AED(自動体外式除細動器)	